

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495500231	事業の開始年月日	平成25年8月1日
		指定年月日	平成25年8月1日
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ川崎神木本町		
所在地	(〒216-0031) 神奈川県川崎市宮前区神木本町1-25-12		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和3年3月19日	評価結果 市町村受理日	令和3年4月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多摩丘陵丘の上にあり、近隣にはあじさい寺、つつじ寺があり、散歩コースには東高根森林公園があります。緑に囲まれた自然環境にはとても恵まれています。安らぎ・安心・快適を目標に、ご利用者には笑顔が日々見られるような介護の実践に努めています。ユニット名には川崎市の花つつじ、宮前区の花コスモスの名を命名しております。

施設も8年目に入り、ご利用者も重度化になりつつ、ご家族からも「最後は施設で迎えたい」とお言葉を頂いております。ご利用者、ご家族のご意向にも添えるよう体制づくりに力を入れていきます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
書類調査月	令和3年3月	評価機関 評価決定日	令和3年4月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
◇理念に基づく利用者本位の支援
・利用者の意見や要望を聞き、本人の支援に何が必要かを職員間で検討し、介護計画に反映して支援に努めている。
・利用者が希望する趣味等は、本人に負担や危険がない限り、日常生活を豊かに過ごすための支援策として、実行している。
◇利用者が安全に入浴できるよう「安全・安心ケア」の実施
・入浴介助では、利用者が安全に安心して入浴を楽しめるように、リフト浴を設置している。

【事業所が工夫している点】
◇コロナ禍で、事業所が工夫していること
・事業所では、家族が利用者と面会をするときは、“予約制にて時間は30分程度・面会者は2名で、防護服を着用して玄関先で”とお願いしている。
・行事ができないため、利用者と職員と一緒に折り紙で季節の花を制作し、共用空間のフロア等に飾り楽しんでいる。
・職員研修は、毎月各ユニット毎に「職場30分研修」を実施している。
・事業所は、家族の面会が難しい現状から、家族に毎月「本人の様子」を写真入りで報告している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ミモザ川崎神木本町
ユニット名	つつじの家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	川崎市の花よりユニット名をつつじの家としました。豊かな感受性をもって、心温まるケアを提供します」という理念を実現を日々努めています。	・「安心・快適・やすらぎ」の理念の基、「利用者目線で支援を」「気づき、考え、行動を」ユニット目標に掲げ、利用者の支援に当たっている。 ・職員は朝夕の申送りで、理念について話し合い共有して、支援の実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍により、地域との交流ができない状態になっていますが、時折、短時間ですが職員と同伴で散歩や外壁にある花壇にいき、地域の方には進んで挨拶しています。	・自治会に加入している。コロナ禍前は、併設のデイサービス利用者と地域住民の舞踊鑑賞会に出かけていた。 ・併設の小規模多機能型利用者と週1回、3時のお茶の時間に交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議も開催出来ない最中ですが、ご見学等の際は支援の方法をお伝えしています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度はコロナ禍により開催できず、報告書提出させていただいています。	・コロナ禍で、運営推進会議は開催できていない。2か月毎に、活動状況報告書を、地域包括支援センターフレンド神木と民生委員に提出している。 ・運営推進会議の参加者の意見で自治会に加入し、交流している。	・「活動状況報告書」を会議メンバーの家族や役所の担当者にも、情報として送られることが望まれます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自治会民生委員の方々に運営活動を報告させていただいています。	・区の生活保護課担当者とは、生活保護受給者についての情報交換と相談で連携している。 ・現在も、生活保護課担当者に利用者の成年後見人の件で、相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について身体拘束委員会を3ヶ月に1回開催し具体的にどのような行為が身体拘束になるかをスタッフが理解するようにします。やむを得ない場合の「切迫性」「非代替性」「一時性」を確認いたします。	・3か月毎に「身体拘束廃止委員会」を開催し、同時に研修を実施している。結果は、スタッフ会議で職員に周知している。 ・管理者は、職員のスピーチロックの対応に「利用者はおお客様」と尊厳を傷つけない会話を指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」について研修を実施しています。虐待の5つの例を具体的にご利用者の人格や尊厳を尊ぶことにより、各虐待の具体的な例を上げ、職員が日々の業務で注意できるように促しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護」に関する研修を実施し理解を深めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用契約書、重要事項説明書を、ご利用者ご家族と読み合わせ、ご理解、ご納得いただけるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	予約ご面会時に来られた際、ご意見、ご要望を伺い、運営に反映するようにしています。	・コロナ禍での家族の面会は、予約制とし30分としている。管理者は、面会時に時間内で、意見や要望を聞いている。 ・家族から面会が難しいので、ラインの要望があり、現在実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階スタッフ会議を月1回開催しています。管理者は職員の意見や要望や提案を聞くように心がけています。	・スタッフ会議で、職員の意見要望を聞き実務に反映している。職員の要望で、花壇を外壁に沿って作成した。 ・管理者は、毎月のスタッフ会議以外に、職員の相談や意見を聞き、検討して運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人の努力た居室担当を決め、やりがいを持てる職場となるよう心掛けています。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々の能力向上のため、アロー委員を設立し、長所を伸ばし、介護技術や知識習得の研修に参加できるようにシフトを調整をしています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現行コロナ禍にて研修がない状態ですが、研修に参加できるようにシフト調整を行い会費負担の承認しています。			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自らの意思でご入居されることは稀にあるが、殆どのご利用者が「家に帰る、子供が待っているからなど」不安であることを十分に理解し、傾聴しご要望をできる限り対応しています。馴染みの生活や好きな食事など、ご家族ご本人から情報を得られるようにいたします。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接にてホームでの生活をする ことに対しての、要望や不安点を収集し、実際の生活に反映し、ご家族と連絡を取り、ご本人の様子を手紙などでも報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望される支援を優先いたしますが、ご利用者のADLや出来ること、出来ないことを見極め、必要な支援を追加しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はお手伝いさんにならないように意識し、ご利用者を据え膳、上げ膳することのないよう。出来ることは、見守りながらご本人にして頂き、一緒に生活している関係を築くようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り面会には来ていただくように予約性にて対応しています。その際要望など、ともに支えていく関係を構築しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の思い出話や写真など拝見した時などは、話を遮らず傾聴しています。	・利用者の友人などの面会は、家族の確認を得て実施している。 ・コロナ禍での面会は、防護服を着てもらい30分・2人までを条件に、玄関先で実施している。 ・職員は電話・手紙の取次を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題や共同でできるレクリエーションなど、みんなで話し合えるような雰囲気づくりをしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了する際も他施設の紹介・相談・アドバイス等を行い、相談や支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人・ご家族に聞き取り調査をしています。ご利用者が言葉にならない場合はご家族に聞き取りをしご利用者の気持ちになって検討しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の編み物がしたいとの要望に、職員が毛糸を用意した。 ・職員は利用者の話を聞き、意向や要望を把握して、申送りと記録で、職員間で共有している。 ・把握困難な場合は表情仕草・家族の情報から把握している。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のヒヤリング等で生活歴、生活環境を聞き取りし、利用サービスの内容を確認しています。ご本人・ご家族に生活していく上での疑問など馴染みの生活を継続できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の1日の過ごし方を理解、把握をしその人らしい、その人が臨む生活が送れるようにしています。そして、お手伝いなどお願いし、どのようなことができるかを日々把握するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成する際は、ご本人、ご家族様からヒアリングし、要望をもとにして、モニタリングスタッフ参加にて開催し色々な意見や現状に即した介護計画を作成しています。	・本人・家族の意見は、面談で聞き、困難な場合は電話・書面で行っている。医療関係者の意見は往診記録・看護記録から反映して、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の、業務実施や個人別ケース記録を確認することにより、ご利用者の現状に即した介護の実践やケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の現状の要望により応えられるよう、職員や関係者と協議し日々の出来ることを考え、発想を柔軟にし取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍なので、出来る限り施設内にて過ごして頂いていますが、気分転換に短時間ですが、職員と一緒に外に出ています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医（主治医）の往診が致します。ご利用者に丁寧言葉をかけて頂き診察して下さっています。適切な医療を受けられています。	・契約時に協力医の説明をし、合意を得て利用者は、月2回の訪問診療を受けている。 ・外来受診は協力医の指示の基、家族に連絡を取り、職員が同行し受診している。 ・訪問看護師は週1回、訪問歯科は月2回の訪問診療がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回主治医の医院より訪問看護で診て頂いています。往診前後の医療面での不安があれば、適切なアドバイスや連絡が取りやすくなっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連絡を取り、情報の共有に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と情報を共有し、施設でできること、出来ないことを明確にして、ご家族と話し合い対応しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に重度化および看取りへの対応につき、事業所ができることを家族に説明し、同意を得ている。 ・最近も家族の希望で病院から事業所へ戻られた方を、家族も泊まり込み、看取った事例がある。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変時や事故発生時は、社内連絡と24時間対応の医療連携先への連絡をスタッフ全員が確認しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、消防署の指摘を受け避難訓練を実施しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署の指導・協力のもと、夜間想定を含め、年に2回の防災訓練を行っている。 ・備蓄管理リストを作成し、非常災害用に3日分程度の食料、飲料水を備蓄している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは、ご利用者1人1人を人生の大先輩として敬い、丁寧で心のこもった対応で接しています。	・職員は入職時やその後の研修で人格の尊重やプライバシー保護について学び、その人に合った言葉かけや対応を心掛けている。 ・不適切な対応には、職員間で注意・確認し合い、問題があれば管理者が助言指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自由に、自分の思いや希望を表せるような雰囲気づくりを心がけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、主体はご利用者であることを、スタッフは理解し、業務優先になることなく、ご利用者のペース、希望に沿って支援していきます。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時のパジャマから更衣する際はご本人に確認をしたり、モーニングケアの際はブラシを渡し髪をとかして頂いたり等支援しています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	刻みやトロミを必要に応じて対応しています。食後の食器拭きなどお願いをし快くして頂いています。現状の食事状態に合わせてムース食の提供をしています。	・箸、茶碗などは利用者が使い慣れた馴染みのものを使っている。 ・利用者はできる範囲で下膳や食器拭きを手伝っている。 ・月に1回、利用者の好きな回転寿司などに出かけていたが、現在はコロナ禍で中止している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人のケース記録に食事量・水分量を記入し、1日の経過が分かるようにしています。水分量が不気味のご利用者には、お茶だけではなくジュースやゼリーなど作り提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分でできる方には声掛け促しして頂いてます。介助が必要な方には声掛け後、洗面台へお連れし口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつや尿取りパットに頼るだけではなく、ご本人の意思表示や素振りが診られる時は、今後、尿意、便意を残存していくためにもすぐに対応しています。	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの排泄リズムを把握し、利用者の様子や時間を見計らって声掛け誘導し、トイレでの排泄を支援している。 夜間は、基本的に2時間置きとし、利用者の状態に合わせて時間を空け、介助に入る場合もある。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に朝食時にヨーグルトを提供しています。また、水分摂取を都度促しをしています。日々の排便の有無を個別ケース記録にて記入し確認しています。主治医から指示を受けているご利用者は便秘薬や下剤にて対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入所されてからの楽しみは、食事と入浴であることをスタッフは理解し喜んでいただけるよう支援しています。	<ul style="list-style-type: none"> 週に2回午前中の中の入浴を基本とし、入浴を好まない人には、時間や日にちをずらすなどの工夫をしている。 場合によりリフト付き浴槽が利用でき、自立度の高い利用者には、同性介助にも配慮している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良質な睡眠が確保されるように、に入床時間、夜間のトイレのタイミングなどを把握し、またその時々状況に応じて入眠、休息を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは利用者1人1人の既往歴や薬の効能を理解し、服薬の支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者1人1人の生活歴、能力に応じた役割、楽しみ事（洗濯物量、食器拭きなど）スタッフから押し付けるのではなく、一緒にするようお願いしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍なので、外出は出来ませんが、感染者が減少し、明るい兆しが出てきてから外出を考えています。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前まで、近隣へ散歩や買い物をし、家族と一緒にバラ園などに出かけていた。また、月に1回は外食ツアーにも出かけていた。 ・現在はコロナ禍で外出はできないが、利用者は窓際やベランダでの日光浴や外気浴で気分転換している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で散歩や外出もできませんが、庭先での外気浴や、室内歩行を多くするなど、利用者の気分転換や体調維持への支援を、今後も継続していくことが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解しています。ご入居時ご本人の希望により現金を持っている方がいます。入居時の金額の把握をし、時折職員が現金の確認をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人との連絡はご要望があれば、その要望に沿うように支援しています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事や憩いの場となるリビングでは、ゆったりとしたリズムで生活が送れるよう配慮しております。季節ごとの装飾にも工夫をしております。	・温湿度、照明や換気に配慮した明るい居間には、ソファがあり、居心地の良い空間になっている。 ・居間には、利用者と作成したバラや枝垂桜など、季節感を採り入れた折り紙を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の席順は気の合う方々を組み合わせたりと、会話が弾むようにしています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた好みの服や身の回りの物を、入居の際や入居後ご家族にお願いをしてお持ちいただき、心地よく過ごして頂けるように支援しております。	・居室には使い慣れた家具や仏壇などを置き、家族の写真や趣味の物を飾り、自分らしい部屋にしている。 ・職員による清掃が行き届き、室内は清潔で居心地良く過ごせるようになっており、職員と一緒に掃除をする利用者もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の床はフローリングではなく絨毯にし、転倒時の衝撃を少しでも抑えられるように工夫をしております。歩行介助をすることにより、歩くことへのアプローチをしています。			

事業所名	ミモザ川崎神木本町
ユニット名	コスモスの家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		○	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
		○	4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「宮前区の花」よりユニット名を「コスモスの家」としました。「豊かな感受性をもって、心あたたまるケアを提供します」という理念を実現すべく日々努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍により、地域との交流ができない状態になっていますが、時折、短時間ですが職員と同伴で散歩や外壁にある花壇にいき、地域の方には進んで挨拶しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議も開催出来ない最中ですが、ご見学等の際は支援の方法をお伝えしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度はコロナ禍により開催できず、報告書提出させていただいています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自治会民生委員の方々に運営活動を報告させていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について身体拘束委員会を3ヶ月に1回開催し具体的にどのような行為が身体拘束になるかをスタッフが理解するようにします。やむを得ない場合の「切迫性」「非代替性」「一時性」を確認いたします。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」について研修を実施しています。虐待の5つの例を具体的にご利用者の人格や尊厳を尊ぶことにより、各虐待の具体的な例を上げ、職員が日々の業務で注意できるように促しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護」に関する研修を行い理解を深めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用契約書、重要事項説明書を、ご利用者ご家族と読み合わせ、ご理解・ご納得いただけるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催や運営推進会議にご家族代表としてご出席いただいた際、また日頃面会に来られた際に、ご意見、ご要望を伺い、運営に反映するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階スタッフ会議を月1回開催しています。管理者は職員の意見や要望や提案を聞くように心がけています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ一人一人の努力や頑張りを公平に評価し、やりがいの持てる職場となるよう、心掛けています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々の能力向上のため、アロー委員を設立し、長所を伸ばし、介護技術や知識習得の研修に参加できるようにシフトを調整をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現行コロナ禍にて研修がない状態ですが、研修に参加できるようにシフト調整を行い会費負担の承認しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自らの意思でご入居されることは稀にあるが、殆どのご利用者が「家に帰る、子供が待っているからなど」不安であることを十分に理解し、傾聴しご要望をできる限り対応しています。馴染みの生活や好きな食事など、ご家族ご本人から情報を得られるようにいたします。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接にてホームでの生活をする ことに対しての、要望や不安点を収集し、実際の生活に反映し、ご家族と連絡を取り、ご本人の様子を手紙などでも報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望される支援を優先いたしますが、ご利用者のADLや出来ること、出来ないことを見極め、必要な支援を追加しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフはお手伝いさんにならないように意識し、ご利用者を据え膳、上げ膳にすることのないよう、出来ることは、見守りながら、していただき、一緒に生活している関係を築くようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り面会には来ていただくように予約性にて対応しています。その際要望など、ともに支えていく関係を構築しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の思い出話や写真など拝見した時などは、話を遮らず傾聴しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題や共同でできるレクリエーションなど、みんなで話し合えるような雰囲気づくりをしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了する際も他施設の紹介・相談・アドバイス等を行い、相談や支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人・ご家族に聞き取り調査をしています。ご利用者が言葉にならない場合はご家族に聞き取りをしご利用者の気持ちになって検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のヒヤリング等で生活歴、生活環境を聞き取りし、利用サービスの内容を確認しています。ご本人・ご家族に生活していく上での疑問など馴染みの生活を継続できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の1日の過ごし方を理解、把握をしその人らしい、その人が臨む生活が送れるようにしています。そして、お手伝いなどお願いし、どのようなことができるかを日々把握するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成する際は、ご本人、ご家族様からヒアリングし、要望をもとにして、モニタリングスタッフ参加にて開催し色々な意見や現状に即した介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の、業務実施や個人別ケース記録を確認することにより、ご利用者の現状に即した介護の実践やケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の現状の要望により応えられるよう、職員や関係者と協議し日々の出来ることを考え、発想を柔軟にし取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍なので、出来る限り施設内にて過ごして頂いていますが、気分転換に短時間ですが、職員と一緒に外に出ています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医（主治医）の往診があちます。ご利用者に丁寧言葉をかけて頂き診察して頂いています。適切な医療を受けられています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回主治医の医院より訪問看護で診て頂いています。往診前後の医療面での不安があれば、適切なアドバイスや連絡が取りやすくなっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連絡を取り、情報の共有に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と情報を共有し、施設でできること、出来ないことを明確にして、ご家族と話し合い対応しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変時や事故発生時は、社内連絡と24時間対応の医療連携先への連絡をスタッフ全員が確認しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、消防署の指摘を受け避難訓練を実施しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは、ご利用者1人1人を人生の大先輩として敬い、丁寧で心のこもった対応で接しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自由に、自分の思いや希望を表せるような雰囲気づくりを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、主体はご利用者であることを、スタッフは理解し、業務優先になることなく、ご利用者のペース、希望に沿って支援していきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時のパジャマから更衣する際はご本人に確認をする。好みの乳液など使用し、自立でできる方は洗面台にてモーニングケアなどして頂いています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下機能低下のご利用者にはムース食に変更し対応している。食後の食器拭きなどご利用者が積極的に拭いてくださっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人のケース記録に食事量・水分量を記入し、1日の経過が分かるようにしています。水分量が不気味のご利用者には、お茶だけではなくジュースやゼリーなど作り提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分でできる方には声掛け促しして頂いています。介助が必要な方にスポンジブラシやコンクール、口腔ティッシュ使用にてコウクウケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつや尿取りパットに頼るだけではなく、ご本人の意思表示や素振りが診られる時は、今後、尿意、便意を残存していくためにもすぐに対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に朝食時にヨーグルトを提供しています。また、水分摂取を都度促しをしています。日々の排便の有無を個別ケース記録にて記入し確認しています。主治医から指示を受けているご利用者は便秘薬や下剤にて対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴剤など使用して楽しんでいただいています。立位困難な方などはリフトにて浴槽の中に入って頂いて入浴を楽しんでいただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良質な睡眠が確保されるように、に入床時間、夜間のトイレのタイミングなどを把握し、またその時々状況に応じて入眠、休息を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは利用者1人1人の既往歴や薬の効能を理解し、服薬の支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者1人1人の生活歴、能力に応じた役割、楽しみ事（洗濯物量、食器拭きなど）スタッフから押し付けるのではなく、一緒にするようお願いしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍なので、外出は出来ませんが、感染者が減少し、明るい兆しが出てきてら外出を考えています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解しています。ご入居時ご本人の希望により現金を持っている方がいます。入居時の金額の把握をし、時折職員が現金の確認をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人との連絡はご要望があれば、その要望に沿うように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事や憩いの場となるリビングでは、ゆったりとしたリズムで生活が送れるよう配慮しております。季節ごとの装飾にも工夫をしております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の席順は気の合う方々を組み合わせたりと、会話が弾むようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた好みの服や身の回りの物を、入居の際や入居後もご家族にお願いをしてお持ちいただき、心地よく過ごして頂けるように支援しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の床はフローリングではなく絨毯にし、転倒時の衝撃を少しでも抑えられるように工夫をしております。歩行介助をすることにより、歩くことへのアプローチをしています。		

目標達成計画

事業所名 ミモザ川崎神木本町

作成日 令和3年4月5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	・「活動状況報告書」を会議メンバーの家族や役所の担当者にも、情報として送られることが望まれます。	実施、メンバーやご家族・役所の担当者へ議事録・資料の郵送などを試みる	今後は運営推進会議後メンバー・ご家族・役所の担当者へ資料・議事録・活動状況報告書を郵送する。	3か月
2	49	・コロナ禍で散歩や外出もできませんが、庭先での外気浴や、室内歩行を多くするなど、利用者の気分転換や体調維持への支援を、今後も継続していくことが期待されます。	現行では外出は難しいので屋上を利用したり、室内の運動をレクに組み込み、気分転換や体力の維持を試みます。	暖かい日は2F屋上にて日向ぼっこを実施したり、レクとして体操取り入れ、身体を動かす事での気分転換・体力の維持を行います。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。